

三十九回展受賞者の声

絵画の部



文部科学大臣賞

河野みち子(東京)
「白いカーテンに憩う
光の中で」
(油彩)

この度、文部科学大臣賞を頂きました。
と、大変うれしく思っています。

入会して十五年になりますが、その間新
日美の諸先生方の厳しく、又暖かいご指導
を頂いたこと、特に芳賀先生の丁寧なご指
導、中野先生のウイットにとんだ迫力のあ
るスピーチに時に折れそうな気持ちにモチベ
ーションを与えられ、やる気を取り戻させ
て頂いたりしました。

思い起こせば一つ一つ賞を頂き階段を上
るようにゆっくり歩んできました。一貫性
のないところが、わたしには一貫性があつた
とでも言えますか？いつも迷いそれでも自
分の頑固さを通してきたように思います。
今回の作品に付きましたは日常の様々な
問題等を浮き彫りにしたく、それを遠く
都会の喧騒にだぶらせバックにさりげなく
配してみようと思いつつ出発しました。

初めはもつと薄く描いていたのですが思
い込みの強さで段々濃くなつてしまつた？
人物それぞれの性格付けに自分の思いを
込めて表現したつもりです。全体として穏
やかな一時、空間を詩い上げる様に描き
ました。描いては消し描いては消しの繰り返
しで色々な苦みの積み重ねで出来上がった
ものです。少し方向性が見えて来たのか
なあと前向きな気持ちになつています。

ここまで導いて下さつた方々に感謝の気
持ちでいっぱいです。有難うございました。
これからも悩みながらも思いを込めて描い
て参りたいと思つています。より一層のご
指導をよろしくお願いします。



東京都知事賞

清水泉州(島根)
「春爛漫」
(水墨)

この度の受賞は私が取り組んできた水
墨画活動の中で最も誉れある嬉しい出来
事です。これ迄支えて頂いた新日美協会
を始め関係者の皆様に先ず持つて厚くお
礼申しあげます。とりわけ今は亡き前会
長には幾度となく墨の濃淡等についてご
指導頂くと共に温かい励ましのお言葉も
賜りました。

今では叶わぬ事ですが前会長には受賞
作品をご覧頂きその意見をお聞かせ頂き
たかつたと思つています。

私は今年で米寿を迎えました。今回の
作品は私自身を「老桜」に重ねて私の「心
の桜花」を表現したいとの思いで描きま
した。又、制作に当たつては人の模倣で
はなく、これまで培つてきた技法を駆
使して、例えば胡粉、白抜き液等は一切
使用せず墨と水で紙の白さを残して桜花
を表現する独自の手法を用いています。
そして試行錯誤を重ねた末に出来上がつ
たのが「春爛漫」です。

諸先生方の身に余る高い評価により受
賞出来ました事に対して改めて深く感謝
申し上げます。これからも筆が持てる限
り描き続けたいと思つています。どうか
これ迄にも増して皆様方の温かいご支
援ご指導を賜りますようお願い致します。



東京都議会議長賞

宮嶋ふみ子(東京)
「凜として春を待つ」
(油彩)

明日からが出発点
この度の三十九回展におきまして、身に
余る賞を頂き今後の絵画制作と向き合う
励みとなります。改めまして有難うござい
ました。お礼申し上げます。
振り返りますと下の娘の高校受験が済
みほつとした頃、さて自分の今後は何をと
考えておりましたところ、知人から絵を勧
められ三十余年経ちました。美術学校で学
んだわけでも、才能があるわけでもなく、サ
ークルの方々を旅をしては描き、月一回の
教室に参加したり、自由に描いてまいりま
した。七十歳ごろから何かを変えなくては
自分の悪い癖から抜けられないと思ひ、基
本から学びました。
今度の作品では色が濁らない様にと種々
工夫をし、決めた構図は変えないことを念
頭に置き、支部展が終えたところからスタ
ートしました。画題の「凜」を出すために樹
には「力」を感じさせ「家」には「長く続いた家
風」をと必死に数カ月取り組みました。
継続は力なりの言葉をこの年になり、身
を持つて味わいました。これからも会の皆様
と共に描き続けたいと思ひますので、宜し
くお願い申し上げます。



新日美大賞

早田美智子(東京)
「早春のころ」
(油彩)

この度は、身に余る大きな賞を賜り大変
光栄に存じます。有難うございました。
毎年何を描こうか決まるまでが大変で
す。それが今回は早々と「母を描く」と決め
ました。ただの「川の流れ」がなぜ母なのか、
それには少し訳があります。

母が亡くなって既に四年になります。よく
一緒に旅行をしました。ある時行った温
泉で、露天風呂の正面に短歌が飾られてい

ました。曰く「人の世と川の流れは同じこと
やがて行きつく大海の波」。なるほどねえ」と
半分茶化しながら言った私に、母がいたずら
っぽい顔で「あなたも田んぼばかりじゃなくて
たまには川でも描いたら？」と言つたのでした。
当時の私は棚田に夢中でしたから、「イヤ
ミ？」なんて言つて話はそれで終り。私は少しも
優しい娘ではありませんでした。
母が亡くなつた後、同じ温泉に行き「人の世
と」の札を眺めながら涙があふれて仕方があ
りませんでした。母に似合った小さな川を見つ
けスケッチしたのは、その直後でした。



中尾賞

片桐金治郎(千葉)
「手賀沼(冬)」
(油彩)

中尾前会長に思う
新日美展出品歴四年目の私は中尾前会長と
は言葉をお交した事も無く、過去二回程授賞
式の折り目を合わせた位でした。只、七・八年
前に始めて新日美展を見た時に中尾会長の力
強さの中にも調和のとれた色合いの作品を拝
見し強烈な印象が残つており、いつか私もこの
様な絵を描いてこの会に出品出来たらという
思いがありました。

会報148号に38回展新日美大賞を受賞
された鈴木委員の会長との出会いと、絵の描
き方を教授されたいきさつ記されておられ、その
時の内容は省略しますが、その教えは私の心に
強く残つておりました。

会長が亡くなられ今回より会長賞改めの中尾
賞が設けられ、第一号受賞は新日美との深い
縁を感じております。鈴木氏への助言は中尾賞
と名を変えて私に直接助言されたものと勝手に
解釈し今後の制作の励みに頑張る気持ちを
新たにすきつかけを作つて頂きました。
最後に皆様のご厚情に感謝申し上げます。